

ねん がつ  
2018年6月

たいけんがくしゅうしつ  
体験学習室—No.16

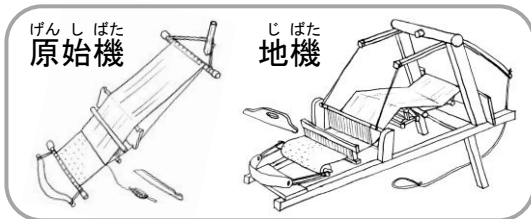
# けんぱくものしりシート

## たか ばた 高 機



このはたおり機は『高機』といって、織物の生地(布)を作るための機械です。織物とは、ピンと張った経糸に緯糸を組み合わせて織り上げた布地のことで、衣服や敷物など、古くから幅広く使われてきました。

日本では弥生時代(およそ 2300年前 ~1700年前)から、原始機で織物が作られていました。その後、地機が使われるようになり、江戸時代(1603年 ~1868年)中期から、高機が全国的に広く普及しました。



地機では 1反(大人の着物1着分の布地)を平均3日で織り上げていたのに対し、高機では1日で織り上げることができるようになりました。また足の操作が加わり技術も高度化されて、木綿の普及とともに活躍しました。

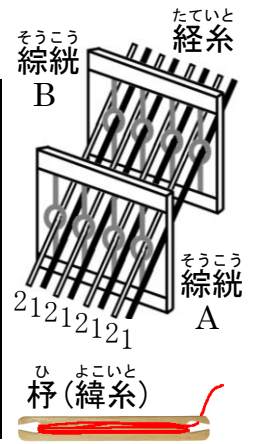
やがて、明治時代(1868年~1912年)になると動力織機が発明され機械化していきませんが、高機での『手織り』は温かみのある味わい深い製品として、今も愛され続けています。岩手県では、衣服などの使い古した布をひも状に細く裂き、緯糸として織り上げる『裂織』や、手紡ぎの太い糸で独特の風合いがある『ホームスパン』が、伝統工芸品として知られています。

【高機のしくみと織り方】

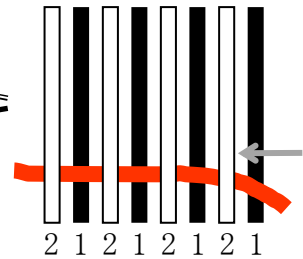
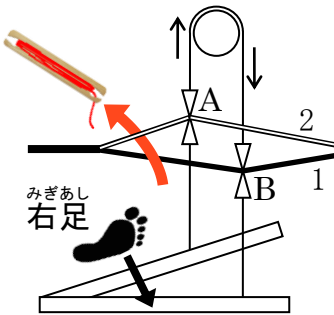
もっとも基本的な『平織』を見てみよう！

準備

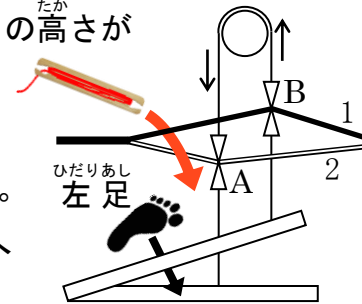
せいけい 整経	ひつよう なが はば ほんすう たていと おま ま 必要な長さ・幅(本数)の経糸を男巻きに巻く。
そうこうとお 綜統通し	そうこう わ きすういと みぎず そうこう わ 綜統Bの輪に奇数系(右図1)、綜統Aの輪にはぐうすういと みぎず たていと ほん とお 偶数系(右図2)の経糸を、1本ずつ通す。
おさととお 箴通し	たていと おさととお 経糸を箴に通す。
たていとむす 経糸結び	めま ぬの たていと むす つ は 女巻きの布に経糸を結び付け、ピンと張る。
よこいとま 緯糸巻き	ひ よこいと ま 杼に緯糸を巻く。



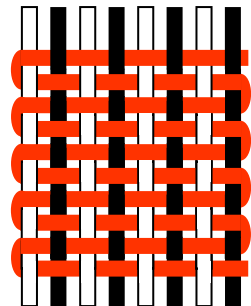
① 右足で踏み木を踏むと綜統Aが上がって綜統Bが下がる。  
すると経糸1と2の高さが変わり、三角形のトンネルのような空間ができるので、そこに右から杼を通す。  
通った緯糸を箴で手前へトントンと打つ。



② 左足で踏み木を踏むと綜統Aが下がりて綜統Bが上がる。  
すると経糸1と2の高さが入れ変わるの、そのすき間に左から杼を通す。  
緯糸を箴で手前へトントンと打つ。



③ くりかえし



経糸や緯糸の色を変えると模様ができたり、綜統の数を増やすと『綾織』『朱子織』と違った別の織り方もできます。

機織をやってみたい人は声をかけてね。

やりたいです！『鶴の恩返し』気分を味わおう！

じゃあ私は織姫気分！

ケンくん

ハクちゃん

参考 『世界の織機と織物』 国立民族学博物館 2013年/  
『手織りと手紡ぎ』 株式会社グラフ社 2000年/ 『織物の日本史』 遠藤元男 1971年 他

来月(7月)のけんぱくものしりシートは地質-17だよ！  
おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。